

令和6年度京田辺市医療的ケア児等支援連絡協議会（第1回）議事録【要旨】

*京田辺市の医療的ケア児等の現状について

【委員】保育所や子ども園等での預かり時間と、早朝・延長の対応について聞きたい。

【委員】医療的ケアの園児を1名預かっている。夕方の延長を使われる時もある。

*京田辺市医療的ケア児等に係る庁内等連携会議の報告

【委員】小児の訪問看護の情報について情報提供書により報告しているが、他の方法による報告も必要か。また、市立幼稚園についても市に直接情報が入っているのか。

虐待ケースについて、児童相談所への定期的な報告の方法を聞きたい。

【子育て支援課担当課長】報告書は保健師が支援において活用している。情報提供書で良いが、他に伝えておいた方が良い内容があれば、連絡をいただけるとありがたい。

虐待については、初めて対応するケースの場合は子育て支援課の子ども家庭センターか家庭児童相談室に連絡をお願いしたい。継続して関わっているケースの場合は、既に連携が取れているため、電話で連絡をお願いしたい。市が関わっていないケースについては相談してください。

【委員】訪問看護の情報提供書の書き方や内容が事業所ごとに違う。今は対象児童が少ないが、今後増えることも想定して様式や項目を検討してみてもどうか。

【委員】書式は相違ないと思うが、関係機関にとって必要な情報等を提供できるよう、統一したいと考える。

*先進地視察の報告

【委員】校長先生の話や校内見学では、子どもの興味を伸ばすところに力を入れていると感じた。授業中に廊下を歩いている児童がいても、ダメだと言う先生もいない。医療的ケアや発達障がいといった線引きが子どもには関係ないという印象だった。

【委員】30年前から取り組まれており、本当に進んでいる事例だと思う。本市でも参考にし、何か進められることがあれば良い。

【委員】市全体で先進的に取り組まれている。本市でも関係機関との連携を作りながら進めていけたらと思う。

【委員】インクルーシブ、「共に学ぶ」という姿勢で30年間続けて来られたことで、こういう形が出来上がっている。授業と関係ないことをしても注意されないことに馴染みがないため、どのように捉えたら良いのか分からない。すぐに取り入れることは難しいと思う。

*意見交換

【委員】もし、今自分の子どもが生きていたら27歳だが、豊中市での取組みが始まった頃に、重度の障がい児でも普通の学校に通学できる選択肢があったのかと思った。支援学校に行くことが当たり前だと思い育ててきたが、支援学校で十分幸せな12年間だった。学校で大事にされている『自立とは依存先をたくさん持つこと』という言葉が、子どもを育てていた時の自分や普通の学校に通学されている方にも教えてあげたい。

【委員】今までは医療的ケアの児童はまとめられており、他の児童と学習や遊びが違っていたが、支援学校に看護師の派遣で行かせてもらい、動きのある児童と一緒にクラスにされているのを初めて見た。支援学校も変わってきていると感じた。

【委員】開校当初からの方向性で、学校の中でいろんな子どもたちが一緒に小さな社会を経験できるような学級作りをしている。また、校内や外部の方と連携することも大切にし、PTにも来てもらい、機器を活用してコミュニケーションを取るなど、先進的に進めて行きたいと考えている。

【委員】今年度、本協議会やネットワークに参加されていない医療的コーディネーターが役割や今後の活躍についての意見交換を行ったり、保健医療の学習会ができれば良い。

【委員】I型糖尿病以外の医療的ケアの子どもが普通小学校を希望した場合、必ず受け入れてもらえるのか。

【学校教育課長】受け入れ等のマニュアルを作成しており、まず受け入れを前提に考える。看護師の配置や特別な器具等が必要な場合、学校で体制が取れるかどうかの検討も必要である。